

これからの世界・社会に立ち向かう
日本の夢（ビジョン）

第三期自啓共創塾

塾生・最終レポート
附・伴走者レポート

令和5年12月19日

一般社団法人

世界のための日本のこころセンター

第三期自啓共創塾塾生の最終レポート「これからの世界・社会に立ち向かう日本の夢（ビジョン）」

原則 15 歳から 60 歳までの多世代で、また職業や属性も多岐にわたり、さらに居住場所も日本全国、海外に及ぶ 30 名の塾生が集い、学び合った結果の、各人の最終レポートです。

塾生	年齢		所属	役職
1	59	男	法律事務所	
2	32	男	企業	
3	21	男	大学 3 年生	
4	57	男	企業	研修講師ファシリテーター
5	28	男	企業	
6	53	女	企業	代表取締役
7	54	女	企業	代表
8	21	男	大学 4 年生	
9	15	男	高校 1 年生	
10	54	男	企業	人材育成室長
11	48	男	企業	創業者
12	53	男	一般社団法人	
13	23	男	無職	
14	48	男	企業	
15	25	男	企業	
16	36	男	企業	
17	35	男	企業	
18	48	男	企業	代表
19	39	男	企業	
20	28	男	公務員	中央省庁
21	46	女	企業	
22	32	男	企業	ミャンマー出身・ヤンゴン駐在
23	46	男	企業	
24	15	男	高校 1 年生	
25	16	女	高校 2 年生	
26	19	男	大学 1 年生	
27	33	女	企業	
28	20	男	大学 3 年生	
29	66	女	一般社団法人	理事長
30	59	女	企業	

《塾生レポート》

2 村井俊範

自啓共創塾への参加により、日本の歴史、文化などを通して、そこにある精神や物事への捉え方を学びました。その中で、日本のことろについて深く考える機会を得て、自分の考え方や感じ方についても多くのものが日本のことろに由来していることに気づきました。

この気づきにより、私は大きく2つのことを考えるようになりました。まず、自己の成長についてです。日本では和の精神や禅のことろなどが根底にありながらも、他の文化との融合を通じて発展してきたことを学びました。私も自分の根底にある日本のことろに加え、外部から得た様々な視点やアイデアを積極的に取り入れて、より多面的な視野を持ち、より豊かなことろをもつことにより、成長していきたいと改めて感じることができました。

もう一つは他者についての理解です。今回の学びを通じて、日本のことろとそれ以外の文化をルーツとする人々の違いに気づくことができました。その違いは、良し悪しではなく、考え方の多様性の一因であることを知り、異なる視点からの理解に向き合う機会となったことを感じています。

この2つの理解を通して、私はこれからもより一層努力し続けていきたいと思います。多くのことを考えるきっかけを得たこの自啓共創塾への参加は、多くの気づきと学びを得る機会となりました。ありがとうございました。

3 鈴木陽之助

私は、これから先の日本には、国民一人一人が今の己を変えてゆくという覚悟が必要だと考える。日本の心を代表するものとして、神道のあらゆるものを取り込み共存させる習合の概念や、武士道の己を律する儒学・陽明学をはじめとした思想がある。これらの思想をもって、多様化が進む現代社会の中で我々は確固たる己という物を確立しつつ良い物を取り込んでゆくバランス感覚が必要である。

現代には様々な問題があるが、それを解決するためには国の礎たる国民がまず変わらなければならない。そこで先程述べた、日本の心が役に立つのではないかと私は考える。日本の心を学ぶことにより、日本人はより国際社会で日本人として輝くことができるのではないだろうか。

又、四月から社会人となる私取り組みなければならないことは学び続け、一人の人間・日本人として真に自立し日本の心でもって身近な人や物に貢献することである。

4 宮田茂彦

月初めに武家の古都・鎌倉を訪れました。円覚寺では禅僧のお導きで坐禅を組み、建長寺では、野菜くずを無駄なく用いた熱々のけんちん汁を味わうとともに、本来は神社にある鳥居や本殿内の地藏菩薩坐像と神像の同居から神仏習合の名残りを感しました。両寺でお会いした禅僧はみな謙虚で礼儀正しく、手入れの行き届いた両寺の美しい仏閣や庭園には、自然と人の調和が感じられました。

上述の円覚寺の禅僧によれば、「禅は自分中心の心の働きを改めていく」とのこと。また、「敵味方の区別を超えて皆平等に。自分も他人も共に救う」との教えが心に響きました。

以前から好きなことば「不易流行」と「自利利他円満」、これまで自啓共創塾と五感塾で重ねてきた学びと対話、そしてお寺での体験も踏まえて、日本のことろについて私は次のように考えます。「一つ一つのを大切にし、礼節を重んじ、考え方の異なる人々や自然と人間が調和する習合の文化を日本に残し世界にも広め

ることで、平和に貢献できる」と。

また、日本にある「言霊」信仰も未来につなぎたいです。感じたり思ったりしたことを、口では言い表せないと思わずに、丁寧に言葉にして自分の気持ちや真意を確認し、他者に伝えたり聴き合ったりして理解度や納得度が高まると、相互尊重や相互理解や共創、幸せな生き方に進んでいくと考えました。

有り難いことに、日本語には大和言葉・オノマトペのように感情や情緒や情感をぴったり表す表現や柔らかくしなやかな言い方が実に豊富に存在します。日常でもっと活用しながら言語化すれば良いと思います。言葉遣いはお金もかからず、政治や社会の既存構造を変えるのを待たずにすぐにでも始められる手段です。真意をいったん言葉にして吟味するのを習慣化することが、これからの時代に必要な、感性・センスを表現する力を磨くのに役立つと考えます。そして、人前でなかなか口を開かない日本人の傾向は伸びしろと捉えて、伝え方を向上していけばいいでしょう。

私は会社勤めから企業研修や対話のファシリテーターとしての活動に移行しようとしています。不易流行・自利利他円満の心づもりで、参加者が思い煩いから少しでも心が軽くなり元気になるきっかけとなる安心の場づくりに挑戦します。そこで一人ひとりが気づきや学びを自得して言語化できるように、地に足をつけてコツコツ取り組んでいきます。

6 大江亜紀香

1,000年プロジェクト

祖父が京都で古美術商をしていました。店頭にも、店舗とつながった家の中にも古いものがそこかしこにありました。幼い頃から、古き良きものに接する機会が多かったと思います。

中学生になった時、生き方を教えてくれる大人を渴望しました。勉強しか教えてもらえない。けれど辛いことがある。こんな時にどのような気持ちでそれらと向き合うのか？生きる指針を誰か教えてほしい。とっていました。

学生時代のある日、萬葉集を読んでいました。その中の歌に、いたく共感しました。具体的な歌を忘れてしまったのですが、20歳前後のことですから、恋の歌だったと思います。感動しました。1,300年前の人と、思いを分かち合える喜びを感じ、同時に古（いにしえ）の人から手紙をもらった気持ちになりました。

感動した私は、返事を書きたくなりました。しかし1,300年前に生きた人に返事を書くことはできません。そこで、思いました。「私も、1,000年未来の人に何かを渡せるようでありたい。」と。

15年間の銀行勤めでは、職場と家庭の人間関係に悩んだことをきっかけに心理学を学び、自己肯定感を高めることがあらゆる面での人生好転の鍵だと気づきました。

独立後18年、エグゼクティブコーチ、NLPトレーナー、脳科学と認知心理学をベースにしたコミュニケーション研修の講師として、10,000人以上の方々の変化の過渡期に関わらせていただいています。それらの活動のベースには、自己肯定感の向上があります。

2007年頃から、「日本が世界にリーダーシップを発揮する時だ」「発揮する面がある」という思いが湧き、会う人ごとに話していましたが、日本の精神文化を学ぶ講座を紹介していただきました。日本精神文化を学ぶと、驚いたことに、テーマであった自己肯定感が一層深まることを実感しました。コーチングや心理学的なアプローチもさることながら、それ以上に、日本を知ることは、心に大きな安定感、肯定感をもたらしてくれました。

2012年から、日本の精神文化を知る講座「リーダーのための言霊塾」を開催しています。参加してくださ

った方々から「初めて聞くことばかりでした。」「日本人としての誇りが湧いてきました。」「日本に生まれてよかったと初めて思いました。」「NY 駐在の前にこの話を聴いていたら良かった」等の感想をいただき、私だけではなく多くの方々が、日本について知ることが誇りや自信を取り戻す契機になるのだと実感しています。この講座は北海道から沖縄まで、企業研修、アメリカパークレー、カナダバンクーバー等で開催してきました。これまでに約 700 名の方々が参加してくださいました。近年はオンラインでヨーロッパ在住の方もご参加いただいています。

この過程で、「1,000 年未来を生きる人たちに、何かを渡したい」と言う原体験と、「幸せになる心の仕組みは意図的に創ることができる」という体験からの気づきが結びつき「1,000 年未来を生きる人に、幸せになる心の仕組みを届ける」というコンセプトが生まれました。これを「1,000 年プロジェクト」と呼んでいます。

『世界のための日本のこころ』15 章に書かれていることに非常に共感します。現代の人類が抱える経済、環境、人権等の課題は、日本に古からある世界観が解決の鍵を握っていると感じています。今、日本から世界に、古から連綿と続く平和的な世界観を文化的な側面、ビジネスの面両方から、それぞれがそれぞれの立場で発信する時だと感じています。

自啓共創塾では、目指す方向性が同じ土居先生ほか多くの方々とご縁を結ぶことができました。既に素晴らしい旗を上げて動いておられる自啓共創塾の皆様方やそこに集まる方々のご縁に感謝しつつ、本当に必要な動きを、起こして行きたい、そのために残りの人生を掛けて行きたい。と願っています。

7 黒木潤子

「まざる」「あえる」まさに日本文化のエッセンスの詰まった場でした。

15 歳～60 歳までということで、私は最年長層。対話時間では、10 代の仲間からの素朴な問いに何も答えられない自分を毎回発見し、みなさんが感じる個々の感想に、異なる靴を履いてみる好奇心がぐんと広がりました。毎回、素晴らしい講師陣によるインプット、主催下さった情熱あふれる土居センター長はじめ、柏木様、井上様、根本様、栗原様・・毎回の講義を支えてくださったすべての方々に深く感謝いたします。

「日本のこころ」というのは、豊かな自然環境に由来する自然観と、それを支える神道的な日本的霊性、さらにそれに仏教や儒教の要素が習合して、長い歴史を経て形成された、日本人の「生活感、社会観、世界観」を支える人格の基礎である。(教科書より引用) 二宮尊徳の言うところの「神道、儒教、仏教を一丸として練り上げた正味一粒丸」という表現も今回初めて教わりました。

さあ、この練り上げた一粒丸を、今こそ、何に役立てましょうか？

「根源・長期・多様 (習合)」この3つは、どこで何に取り組むにしてもベースの考え方として持っていきたいと思います。別の言葉で言うと、オーセンティック、サステナブル、そしてダイバシティ&インクルージョン。横文字の現代課題のキーワードですが、どっかい、実は昔から私たち日本のこころの奥底に横たわっていた軸ではないでしょうか？

宇宙の哲理から根源的本質的に考えれば、行きすぎた資本主義の限界は明らかで、あらゆる叡智そして技術は人間の本来の幸せと地球との共生にとって役立っているか？という視点。

地球環境から会社運営、家庭運営まで長期で物事を捉えれば、その視座やそのオペレーション、関係性、働き方は持続可能か？という問い。

その根源と長期に沿っていけば、最後には自ずと多様な存在を認め合い、活かし合うことに繋がり、習合へ。

さて、私の仕事はエグゼクティブコーチとしてリーダー層を舞台裏で支える仕事です。一木塾頭の講義にも

あったように、日本では社会で物事を決める場の圧倒的多数がなお男性です。よって、私のクライアントの多くは男性で、伴走しながらも異なる視点や本質的な問いを出すことを心がけています。同時にこれまでバッテリーボックスに立つ機会のなかった女性のエンパワーメントも私のライフミッションだと思っています。

神田先生が講義で「男女が混ざっていた方がより創造的になる。知的、かつ、面白い」というコメントが印象的でしたが、男性性（マスキュリティ）が極端に高い集団は根源・長期・多様的に生き残れるだろうか？ そんな問いを出し続けていきたい。そして、ジェンダーとは無関係に個の尊厳が守られ、「個」と「個」が生き生きと、本来の力を発揮できる、相互に助け合える、そんな世の中に一步でも近づけるようなのちを使って参ります。渋谷学園の田村学長が「生きるのは素晴らしいこと！これを伝えるのが教育である。」と端的に表現されていましたが、私もそれを伝え続けられる大人でいたいと思います。

最後に。聖徳太子の十七条憲法が現代に生きるるとすると・・・調和の本質は「和を乱さない」「空気を読む」ことではなく、丁寧な合意形成していくことだと思う。時に対立の炎の上に立ち、衝突も恐れず、より大きい目的のために力を尽くし、できる部分から合意を取り前進すること。地球の温暖化加速も、戦争も紛争も終わらず、自国・自分ファーストが地球上で起きていますが、そんな役割が取れるとしたら、「日本のこころ」を持つ地球市民ではないでしょうか？

10 匿名

自啓共創塾において、これまで学んだことを理論や知識として頭で理解するだけでなく、自分自身が日常生活で意識して実践し、理論と現実のギャップを埋めていきたいと思っています。

現代は、人口減少・少子高齢化の進展、戦争犯罪や自然災害発生に伴う安全・安心への意識の高まり、そして、地球環境問題の深刻化、ライフスタイルや価値観の多様化等、多くの人が目先の喧騒に流されてしまい、自分の信じる道や将来への展望を描きづらくなっているような気がします。

そのような社会環境の中、私は日常生活において、武士道の7つの徳を意識し、日本のこころを家族や友人に共有していきたいと考えています。

また、職場においては、上位役職になるほど、人（組織）を真に動かすのは、職責ではなく心（気持ち）であることを自覚し、目先の損得（処遇・給与等）よりも価値の大きいもの（信用・信頼）があり、それが将来、自分の大きな徳（得）になることを信じながら勤めていこうと考えています。

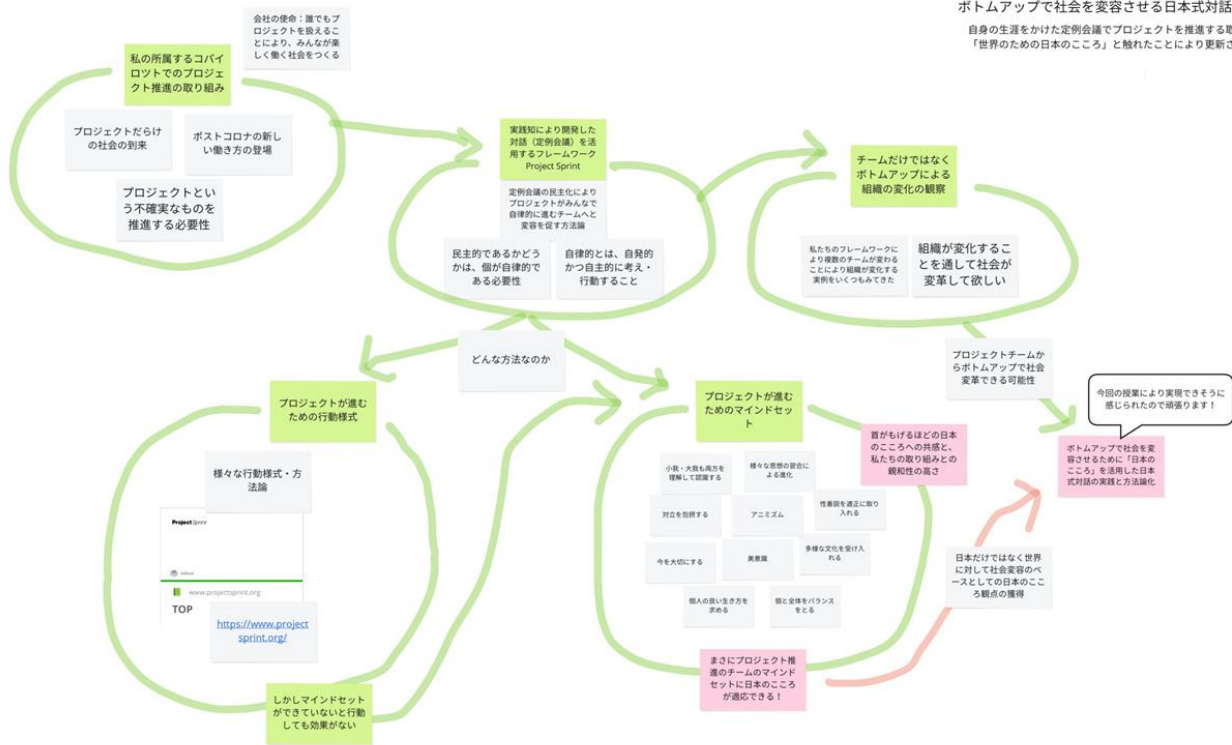
私の将来については、自分の人生のためだけではなく、地域・社会に貢献するといったことをしたいと考えており、退職後は、保護司の資格を取得し、罪を犯してしまった人や非行少年の更生、社会復帰のサポートをしたいと考えています。

罪を犯してしまった人や非行少年は、心に闇を抱えて人との関わりを拒絶するかもしれませんが、他人と区別することなく普通に接することを心掛け、自分の人生経験や体験を踏まえながら真摯に向き合っていこうと思います。

この仕事は、ボランティアとして活動するものであるため、社会貢献に対しての強い気持ちを持つとともに、自分自身が他人をサポートできるほどの精神的ゆとりが持てるよう、将来に向け準備をしていきたいと思っています。

11 匿名

ボトムアップで社会を変容させる日本式対話の可能性
 自身の生涯をかけた定例会議でプロジェクトを推進する取り組みが、「世界のための日本のこころ」と触れたことにより更新されました。



12 松野 豊

まずは、皆さんに心から感謝します。

塾の立ち上げ当初から、井上さんを通じて自啓共創塾のお話を伺う機会がありましたが、見聞するだけと、参加して五感で感じとるのでは趣が少し違ってきます。

毎回レポートを書く過程で自分自身の 54 年間の改めて人生を振り返ることができました。ありがとうございました。

それぞれ、以下の視点で振り返りをします。

(1) これから先どのような世の中にしたいか。そこに日本のこころはどう貢献できると考えるのか。「俺が！私が！」ではなく、皆が思いやりをもって過ごせる世の中にしたいです。そのためには、ひとりひとりが自らの心を磨き高める学びが必要です。自分以外の誰かのために一生懸命汗水垂らして命をかけて励むこと。これこそがサムライスピリッツだと私は考えます。

(2) そのために、自分がこれから、または、将来取り組んでみたいこと。

12月12日(火)に縁あって茨城県境町で、致知出版社の藤尾編集長の講演を聴く機会に恵まれ、さっそく「致知」の定期購読に申し込みをしました。勉強やインプットも大切ですが、頭でっかちに考えることが私は苦手なので「知行合一」の精神で息をひきとる瞬間まで修養を続けて、ひとりでも多くの人が笑顔で暮らせる世の中をつかっていきたいと思います。

13 定森統和

日本は、古来から他の国の文化を受け入れ、土着の文化と合流し、工夫を経て独自の発展を重ねてきました。

外国からの異なる文化を受け入れるとともに、国内で派閥争いが起きても、敗れたモノを絶滅に追い込むという事は、一切行われなかった。

和・習合のところが学習の有無に関わらず遺伝子レベルで育まれていたのではないかと思います。

では、いったいどのようにして育まれていたのでしょうか。その根幹とベースは、縄文時代から続く「米づくり」ではないでしょうか。

「米づくり」は、リーダーとしての役割を全て網羅しているほか、文化形成の土台、精神基礎の土台、教育の土台となっています。例えば、利用できる水源は限られていますから、しっかりと対話を通じた連携が水田稲作の維持には重要です。政治において重要なのは、国民の声を届けることです。対話なしでは声を聞くことも届けることもできません。

また、戦国時代の戦の多くは、稲作に影響が出ないように配慮がされていたとも言われています。何でもかんでも戦って勝てば良いというわけではないことも、リーダーの指針としてお米を通じて学ぶことができます。何より、誰かを出し抜いて人より多く収穫してやろうとした瞬間に、その地域の「米づくり」は崩壊してしまいます。蹴落とすのではなく、和合して協力しなければ、「米づくり」はできないのです。

「米づくり」を差し置いて、「日本のこころ」の源流を学ぶことはできません。

日本に外国から米の輸入がはじまっても、日本人は日本の米を食べます。金額が外国のお米と比較して高くてもです。それだけ、日本人はお金に代替されないこころの基本を米に置いていると思います。米は、糠や稲まで余すことなく使い切ることができます。地域の神社のしめ縄、備前焼などの焼き物は、長い年月をかけて水田の底で育てられた泥をさらに長い年月をかけて粘土に育てます。

口に入るものだけでなく、見た目や器にまで美しいと感じるこころ、どんなに良い果実や結果を实らせても謙虚にこうべを垂れることを美德とすること、これこそ、日本型のリベラルアーツではないでしょうか。天皇陛下もずっとお米づくりを続けられています。

「米づくり」を通じて、自然科学、社会科学、人文科学その全てを余すことなく学ぶことができます。

これが、日本人の全ての学問のベースです。

「米づくり」を通じて「日本のこころ」の源流を（食・文化・資源・対人関係・政治・誇・道徳・体育・知育）学んできたこともう一度再確認し、世界へ「米づくり」の精神の姿勢で臨むことが日本人にもとめられていることではないでしょうか。

14 石関太郎

これからの世界「精神文明の到来」ポールシフトが変わりつつある昨今、地球が生きていることを改めて認識する中、現代は世界的に見ても資本主義からなる唯物主義から精神文明（功利主義から優生主義）へと形而上學が育まれる変転期だと考えます。相も変わらず「経済を良くする」とよく耳にしますが、経済の本質・語源である「経世済民」世を治め民を救うことに気付いた精神の持ち主が正に行動を起こす時。歴史からみてもこんなにも安心で、物質的にも豊かな時代は無いが心の豊さはどうなのか。本質から改め行動する時であり、自分が良ければ良いという我欲な在り方を考えさせられる今と私は感じます。

：視乎冥冥 聴乎無聴「見えない宇宙の姿を心で見て 聴こえない宇宙の声を心で聴く」

見える世界＝約5% 見えない世界＝95%と言われてはいますが、その見えない世界がどのようなものなのか持論ではありますが、現代ではその95%が煩惱の苦しみに塗れる気で作られており、日本人が古来から大切にしているアニミズムや幽寂閑雅の心気で理を明らかにしていく時代と考えています。藤原道真公が仰った

「和魂漢才」 澁沢栄一氏が仰った「士魂商才」そしてこれからは「和魂宇才」の時代への突入（かなと）。

海外の民族性と比べることなどは与えられた役割の違いから意味を持たず、大和人が潜在的に持ち合わせている感性「精神文明」 儒仏道禅神道からなる自然、光、天、道との一体化中庸を本質と捉え規範形成に努め世界に発信していくことで世界の人達の心に響く時代になっていくと考えています。人は何のために生きているのか人は生きている時代に何を感じとることが使命なのか。「人として生を全うするのでは無く、生として人をどう全うするのか」人が持ち合わせている煩悩、だからこそテーゼ・アンチテーゼからアウヘーベンをどう覚醒させていくのか、人生をかけて探求をしていきたいと考えています。

：知行合一の教えをととても大切に考えています。知識とは「知っている」ということだけではなく実際に行動を起こしてはじめて「知識」「経験」となる過去にはこの教えを徹底した大塩平八郎氏も日本の状況が明治維新へと変わるまで乱から約30年を要しました。今行動に起こさなくていつやるのか。この塾を終える正にスタートでありここに在る皆さまと一緒に明日の第一歩を踏み出すことがこの自啓共創塾の意義、本質であると思っております。そこを是非一緒に考えていきたいと思えます。私ごとながらこの塾に通いだし社団法人を設立致すこと相成りました。地球問題を考えるその分野における日本のトップ人材などでチームを構成し、企業や行政などを巻き込んでいきます。この日本の問題・そして大和人の精神性を取り戻すプロジェクトを来年3月にスタートさせます。実際に行動をおこし人がなぜ生きるのか、人生のあるべき姿の探求をチャレンジしていきます。

16 小松陵平

まず、私の感想として、大きく2点ございます。

1点目は、塾生の皆さんが博識ということ。毎回の奥深いテーマに対し、自身の想いや考えをグループディスカッションでしっかりお伝えされる点でレベルの高さと熱量を感じた点です。

経歴も年齢もバラバラですが、毎度皆さんのご意見を[自分にはない視点や考えを学ばせてもらえる新鮮な場]と意識して参加させていただきました。非常に勉強になりました。

2点目は、これまで学校の授業では学ばなかった歴史や人物、思想が非常に多く登場し、その都度ご精通されていらっしゃる先生方のご説明で「道を究める・探求するって凄いな」と感じた点です。私は、今まで漠然と[日本の和のこころ]について、グローバルビジネス社会ではメリットよりデメリットの方が大きいと思っていました。

しかし、他国には無い、もしくはあまり持ち合わせていないというメリットが今後日本の武器であり歩むべく道の一つでないかと思いました。

そのことを踏まえ、今後どのように、そしてどう貢献できるのかについて私の意見を述べます。

まず、決して、米国、中国、インドのような経済大国には少子化の一途を辿る日本はなれないので、ニッチ戦略で高付加価値のあるグローバルポジションを築くことが大事なのではないかと思っています。

AI や大規模戦略には真似できない、人間力やおもてなしの心、安心安全といった人の心に寄り添える細やかな分野で世界を牽引・貢献するのが日本の役割ではないかと思いました。

その中で私には何が出来るのか。。。正直、何も思いつかないのが現状です。しかし、身近なところで言うと、常に感謝のこころを持ち、感じたタイミングで相手にきちんと言葉で伝える。そんな当たり前のことを今一度自身と向き合ってやっていきたいと思えます。

そして、その姿勢を我が子に見せる続けることが、自分が親から受け継いだ心の形成のように次の世代へと受

け継がれることを願って取り組んでいきたいと思います。

以上になります。7 ヶ月間貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

18 須江健治

(1) これから先どのような世の中にしたいか。そこに日本のころはどう貢献できると考えるか。

日本人が自信を取り戻す行動をしていきたい。特に縄文文化、17 条の憲法、二宮尊徳さんを軸に知見を深めていき周りに伝えたい。

縄文文化「14000 年も続いた世界最長で世界最古の文化だったこと、古神道の基礎になっていること、やまとことばの言霊とオノマトペの数の多さ、体を清める習慣など、そして縄文の DNA が現代も残っていること」

17 条の憲法「和をもって貴しとなし、忤うことなきを宗とせよ（平和をもっとも大切にし、抗争しないことを規範とせよ）そのための人間の本质が描かれているのが 17 条の憲法であり、徳を積んだ実践者がリーダーになるべきだと言うこと」

二宮尊徳さん「理念ではなく、とにかく実践で改革していった人だったことを小田原に行って学びました。全財産を投げ打ってそれを基金にしてでもやる、リーダーの本気度が突破口であると言うこと」

その結果「タタミゼ効果」が起り、助け合い、相手を慮り、自らを律する力を持っている「互譲互助」の世界になっていけば良いと思います。

(2) そのために、自分がこれから、または、将来取り組んでみたいこと。

まずは坐禅を継続して自分を整える。やり方を間違えており鼻から吸って口から細く出すようにしていたが、小田原五感塾で鼻から吸って鼻から細く出すことを教わりました。実践の場は学びが多い。

芋こじ会を開催し、いろんな意見を出し合い、その人の強みを活かすことで、会社をより良く強いものにしていき、(1)を実践していくことでリベラルアーツを学んでいきたいです。

「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」

19 伊原洋輔

対立を調和し自分らしく生きることを実現したい

1 自分らしく生きるためには、自分を理解することから

生まれ育った埼玉を離れて石垣島に移住し、今年 4 月に埼玉県庁から転職。自分の大きな構成要素であった「埼玉県」を外して進むと決断した際、私を守ってくれていた「肩書」の欠如による不安と、それが無くなったことで、自分らしく生きやすくなる、「無所属の生き方」を望む自分に気づきました。自分らしく生きるためには、まずは自分というものを理解する必要があります。

2 日本のころの講義と対話で気づかされた「日本人」

「日本とは何か?」、「日本人とは何か?」という、日本人にとって当たり前すぎることを考える機会は、これまでありませんでした。義務教育で歴史を勉強することはありましたが、単なる暗記の教科で、考えることはありませんでした（教科のせいではなく、日本の教育システムの問題のように思います）。

本塾で初めて、日本について考えました。日本の成り立ちや日本のころの源流、塾生の皆様の対話を通じて、日本人である私の行動パターンや好きな事が、「日本の源流、祖先のメッセージでは?」と気づかされ、自分の理解が進んでいます。

もともと、自分自身に控えめで対立を回避する性格にコンプレックスを感じていたのですが、日本人の性格

にそのような傾向があることが理解でき、「自分は日本人らしい日本人だ」と、前向きに捉えることができるようになりました。

また、「和」を重んじる文化や利他性、習合など、今の自分が大事にしている活動に関連する要素が多く、「なぜ活動をしているのか？」と問いに、「日本人だから」という理由が1つ、加わったように思います。

3 日本人らしさが世界を救う

世の中に残っている問題は、対立している概念が引き起こしているものであり、問題を放置することで長年未解決となっているもの。「日本のやり方で進めるか」、「海外のやり方を導入するか」という対立もその一であり、現状は、海外のやり方の導入により、日本人らしさが失われるなどのネガティブが発生しているのではと感じます。「和」や「習合」のような日本らしさが、十分に活かされていないのではないのでしょうか。

4 自分にできること

子育てと仕事、自分のやりたいことも大事する生き方を妥協せずに見つけること、それを子育てに悩む同世代に伝えていきたい。自分の身の回りから、対立を解消して調和した世界を実現していきたいと思います。

20 安部栄光

以下の気づきの点があった。

- ・ 時代ごとに主流となる考え方があり、各国様々な形で受け入れている。
- ・ 議論の中で感じたのは、日本は経済発展を目指す中で、とにかくいいものは受け入れようと柔軟に外国にある様々な考え方を受け入れてきたのではないか。中国からの文化を導入して、自国の文化を作りあげたように、もともと日本は他国の考えを受け入れることは得意であると考え。
- ・ 現在は様々なものを受け入れすぎて、本質的に大事なものが何かを改めて振り返ってもいい段階にあるかもしれない。なんでもかんでもカタカナで受けることができる柔軟性があることも影響しているのかもしれないが、国会答弁に横文字が多すぎる問題もその一つではないか。
- ・ 古くからある日本固有の考え方を知ることは、時代の変遷や淘汰のような作用によって、西洋などの思想と日本の考え方がどのように入り混じったか、ないし、形を変えたのかを考えるヒントになる。
- ・ 思想や考え方の在り方に「正解」はないが、もともと日本にあった考え方を知ることは、日本の根っこを知ることになり、相対的に「今」がどういう時代かを知ることができると感じた。また、何が変わったのかも測る指標になるのではないか。
- ・ 西洋はマーケティングなどマス向けのビジネスが得意だが、日本は個別具体向けの商品が得意とよく聞く。そもそもアイデアを受け入れ、日本内で醸成し、新しいものを作り上げる、こういったプロセスが日本の得意な分野だったのかもしれない。それは日本に職人文化があるからかもしれない（他の国では職人の地位が低いところもあると聞く。日本のように、手に職がある方が尊敬するという点には、日本らしさがあるのではないかと感じた）。
- ・ 現在、価値観や政策など作ったもの勝ちの世界が広がっている。米国しかり、EUしかり、中国もその例に漏れない。
- ・ ポケモン、ドラクエ、ドラゴンボール、ワンピースなど、日本から発信したもので世界的に人気なものはたくさんある。漫画なんかは特に日本的価値観で書かれているものが多いが、世界からの支持を集めるものも多い。こういったところを見ると、今だからこそ、改めて日本固有の考え方は振り返るに値するものではないかと感じる。

- ・ また、「もったいない」文化ではないが、世界から見ても日本固有の考え方には重要な考え方が含まれていると感じている。もちろん、中には時代の流れに合わないところもあるかもしれない。そういった部分は調整することで、うまく活用することができるのではないか。
- ・ 世代が異なっても共通の考え方があると、塾に参加して感じた。ある種、それは日本人共通の考え方であるが、それが最良であるかはわからない。もしかすると、日本人にもともとあったところに戻ったほうが、原点回帰したほうが良いということもあるかもしれない。ただし、何事も戻れば良いというものではないと感じる。
- ・ したがって、まず自分としては日本固有の考え方をより深掘っていくことを引き続き行っていきたい。その中で重要な考え方はさらに自身に定着させ、また政策への考え方に活用していきたいと感じた。

21 森 明子

新しい資本主義社会と雑談力

めまぐるしく変わる現代社会において、敷かれたレールやロールモデルを追うのではなく、自分の得意分野や強み、個性を発揮し、自らプロデュースしていくことが必要になってきている。その中でも、確固たる自分の源泉が何であるかを深掘りしていきたいということ、また世界の中でも他国に類をみないと言われている「日本」のこころを追究したいと思い、参加させていただいた。

宗教や自然環境、外部影響等色々な切り口から深掘りすることができる日本。まずは四季があること、これは情緒を感じやすく、事実、一つの季節しかない国よりも多くのボキャブラリーがあり、言葉の表現力が豊富となる。地震や水害、台風が多く、生活が自然によって危ぶまれることから、多くの神が存在している。しかしながら、神道に加え、仏教、キリスト教等、多くの宗教を受け入れて、生活の中に取り入れている。現に私も、家には神棚と仏壇があり、お経を唱えお祈りしながら、中学・高校・大学とキリスト教で聖書を学びミサに参加している。考え方が自分に合うところの良いところどり、よく言えば、既にダイバシティを受け入れるベースが成長過程でできているといってもよいかもしれない。

日本人とは、過去の歴史の中で、臨機応変に物事を受け入れ、自分たちが暮らしやすいように自分たちにあった形に変えていくことが得意だと思われ、また豊富なボキャブラリー、そして、平仮名・カタカナ・漢字を使い、言葉の表現力は高いと思われる。そして、これからの新しい資本主義の中で、この変化を受け入れ、新しい形を作り上げていくことは、我々の得意分野であると思う。

そして、AI と共存する中で、AI にはなく、また AI を成長させるのに一番大切だと思われる「雑談力」は、このボキャブラリーが豊富で、言葉の表現力の高い我々日本人にはポテンシャルがある。人との対話や様々なジャンルに興味を持ち、この「雑談力」を向上させていきたいと思う。

22 Ye Naung Kyaw

自啓共創塾の各回を通して、日本（人）のこころが鮮明化され、それを形成する要素・背景についても大変勉強になりました。

塾に参加する前は、人間は根本的には、各々の経験、生い立ちによって価値観や思考が決まる為、〇〇人の考えとして一括りにすることは容易なことではないと考えておりました。

しかし、話題提供を下さった先生方やディスカッションに参加された皆様のお話を伺い、完全な一括りが出来ずとも大まかに日本のこころはこれだという理解が出来ました。

正に、性悪説に偏ることなく性善説を適正に位置づけており、利他心をもって大我・真我を希求する姿勢は、世界に誇りを持って見せることが出来、また世界も学ぶべき点だと感じました。まずは、日本人が日本で生活する外国人、又は外国で生活する日本人が現地人に対し、上記の姿勢を見せ続けることで、徐々に日本のところが世界に浸透するきっかけとなるかと思います。日本への観光ブーム、海外における日本ブランドに対する信頼感等々、世界における日本の影響力が高い状態のままであることを活かし、今後も世界平和・環境保全・人類と最先端技術の共存の為に、日本のところを伝え続けられる人材の育成も重要かと思います。

自分自身もこの塾で学んだ日本のところを世界に伝える役割を少しでも果たせられるよう精進していきたいと思っています。

23 富井正浩

(1) 本塾からの学びから生じた関心や興味

日本のところの原点が、縄文時代に起源のある古神道を礎に、仏教（禅）や儒教を習合させたものであることが理解できた。そして、日本人が、各時代において、思想、文化面だけでなく、技術面等においても、外部から新しいものを「習合」しながら、独自の進化及び深化をさせてきたということは、大きな特徴と強みであると感じた。

また、日本のところの実践により、社会の変革期に、大きな貢献をした人達が、実際に多くいることを改めて知ることができ、自分も、日々、自己研鑽を続けていかななくてはならないという大きな励みになった。

「五感力」を高めたいという思いも強くなり、元々関心のあった将棋や武道(柔道)だけでなく、季節等を五感で感じ言葉や作法で表現・形式化する和歌・俳句や茶道にも取り組みたいと考えている。

(2) これから先どのような世の中にしたいか。そこに日本のところはどのように貢献できるか。

自分を含む一人一人が、自分、自分の国、文化を理解し、自分で考え、他者（他国）に自分の言葉で伝えることが重要だと考えている。

その上で、相互を理解し、尊重しながら、自身や社会を成長させることができることが理想ではないか。

前者については、座禅やそれに基づく武道・芸能を学び、実践することが、その実現に大きく寄与するのではないかと考えている。

後者については、日本のところの長所のひとつである、「習合」の実践が、その実現に大きく貢献するのではないかと思う。また、日本人の、個（自己）と全体（他人、環境、世界、宇宙）との関係性を重視する考え方は、個（自国）を重視する欧米諸国及び中国が主導するグローバル世界に異なる視点と示唆を与え、地球全体の維持・発展に寄与しうるのではないか。

個を深めながら「あり方」を示すこと、AIを含む新技術、環境や社会の変化を柔軟に受け入れ「習合」していくことは、まさに、（自己）と全体（他人、環境、世界、宇宙）との関係性の重視の実践であり、今後も人間の役割として残っていくものの一つではないかと考えている。

(3) 自分がこれから、または、将来取り組んでみたいこと

本塾の中で、日本のところの概観、枠組みを学ぶこと、また、グループディスカッションを通じ別の視点を得ることができたが、自分自身が参考図書や古典（原典）を読む時間が確保できなかったため、今後、少しずつ読んでいき、理解を深めていきたいと考えている。

また、参禅会に少しずつでも参加してみることに、茶道の初級者講習に通うこと、将棋の普及指導員研修を受けること等に足元で興味を持っており、取り組むことを検討している。

将来的には、勤務先である総合商社での経験（不動産、金融）や全国通訳案内士などの資格も活かし、日本や日本文化の外国人への紹介、日本での住まいの提供、生活基盤の構築に必要な行政手続き等のサポート等を一連で行う活動ができないかと考えている。

その中で、日本や日本の文化、日本のこころを、自分の言葉、実践を通じ発信し、少しでも理解を深めてもらえるように貢献できないかと思っている。

24 森田 翼

今回の自啓共創塾の中で先生方の話を聞いて、日本文化の特徴やその他の国との違いなどを知ることができました。下は高校生から上は自分の祖父母の代まで幅広い世代の人と、聞いた知識をもとに日々の生活の中との繋がりや疑問について語り合うことができました。今回の活動の中で、普段知ることのできないことや関われない方々と関わって、とても貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。

25 遠藤永里香

第一回の自啓共創塾の際私には夢がないという話をした。これまでの 14 回の活動を通して 夢は未だ見つけることができていない。けれど日本人として私がこうでありたいと思う理想像を作ることができた。

まず学びとして日本は海外のような一つの宗教に書かれた正しさを信じるのではなく儒教や仏教、神道など様々な正しさを教える道を知っており、それは日本人の魂として心に刻まれているように思った。（礼儀、おもいやり、相手に真摯に向き合う）その上で私に必要なのは数多の正しさの道を知っている上で自分なりの正しさを考え、それを持って常に変化する社会に向き合うことだと思う。この自分なりの正しさが本当の意味での己を形成するのではないかと考えた。日々変化し続けるこの社会で真の己を持たず、社会に身を任せることは簡単であろう。けれどそこで誰かの役にたてることのできる何かを成し遂げることは決してなく生きる価値、いわば幸せは見出せないと思う。

自啓共創塾を通してこうでありたい、こうでいたい自分を見つけることができた。せつかく日本人として日本を学べるのだから最大限これからの人生に活かせるようにしたいと強く思う。

26 奥田誠志朗

言い回しが与える印象の大きさを各回のグループダイアログを通じて強く感じました。日本語の繊細な語彙が特に役に立つところであり、私の成長できる場所であるとともに、これからも残していかなければならないところだと思います。

私は学生落語をしているのですが、それを通じて、日本語の言い回しの妙を伝えていきたいです。

27 村北和歌子

他者との対話をより大切にし、それが重要視される世の中にしたいと強く感じた。

本塾で得たのは「自分の言葉で自分の考えを話すために、人間性や人間力を自分の中に形作ったり、醸成させていく行動」が必要だという気づきであり、日本のこころを育むための、自分なりの解釈でもある。

そのための具体的な行動として以下の 3 つを考える。

- ・日本語のインプット

日本人の生活に根差して生まれしてきた言葉、日本文化を背景に生まれた言葉、自分が日本を世界に伝えるため

のツールとして蓄積していく。

- ・感情の解像度を上げる

自分の心の表現…単純な日本語力(知っている言葉の数)ではなく、自分の思いと自分の言葉(表現)がどれだけ乖離がなく相手に伝えられるかを重要視する。

・概念を言語化する…他者の共感を得ることで成り立つと考え、これは AI にはできないのではないか。表現力豊かな日本語(それを使える日本人、感じ取ることのできる日本のこころ)は強みであると考えている。

28 鈴木祐大

途中からの参加でしたが、自分の価値観を広げるとも素晴らしい塾に出会えたとは感じています。塾運営陣や話題提供者にはもちろんのこと、何より私は塾生の方々に感謝をしたいと思います。自分の価値観や創造の限界を広げることができたのは、自分とは全く異なる様々なバックグラウンドを持った塾生の皆様方であると強く感じています。

私の今までの人生には試験や受験といった数字主義のイベントしかありませんでした。そのため、スコアや点数といった数字的な面からでしか物事を見てきませんでした。大学に入学してからも経済学部に入学したため、財務諸表を用いた企業分析をしたり、データ分析をしたりなど、日々定量的に物事を比較分析していました。

しかし自啓共創塾では「こころ」といった定性的な話題が多く、私からすると初めはあまりにも抽象的で話についていくのでやっとでした。しかし回を重ねるごとに自分のこころにもボヤっとした「こころ」のイメージがついてきて、段々と意見を主張し、交わすことができるようになってきました。

人生の先輩方との話し合いは難しく勉強になる大切な時間となりました。正直、会話についていけずに雰囲気に合わせて頷く振りをしている時もありましたが、、、(笑)しかしついていけなくても話を聞くこと自体に意味があり、その積み重ねが大事だとも思っているため、いずれにしても有意義な時間であったとは今では感じています。

一番の思い出は五感塾です。対面で肌身で感じて学びを得ることの素晴らしさを再認しました。二宮金次郎像(子供時代の二宮尊徳)のイメージしかなかった二宮尊徳の実寸大蠟人形をみて驚いたことなどが具体例としてあります。

色々お話ししましたが、結論として述べたいことは皆様との出会いから新たな価値の創造の限界を超えることができ、成長できたことへの感謝です。短い間でのお付き合いでしたが、ありがとうございました。

29 田中ゆり子

この講座を通して改めて認識したことのひとつに、日本のこころとしての特長的なことは、外国の新しい考え方を否定や排除するのではなく、これまでのものと上手に融合させてきたことであると思います。

縄文時代の助け合いのこころ、多神教であり、神道・仏教・儒教の融合、明治以降の西洋思想との融合などの時代を経て、今日の日本人のこころが形成されているということを改めて知ることができました。幅広く、それぞれが奥の深いテーマですから、到底時間は足りませんので、もっと深く知る必要があると感じています。

今回の講座をきっかけに、岡倉天心の「茶の本」を読み大いに感動しました。同じ時代に英語で日本のこころ(道)を書かれたものに、新渡戸稲造の「武士道」がありますが、時代が日清・日露戦争で勝ったことにより「サムライ日本」のイメージを植え付けてしまったようです。それに対して天心の「茶の本」は芸術的な視

点を通して人智を超えた宇宙の摂理としての道を伝えていました。これまでに知った知識の点が線となり面とすることができました。

また、この講座のテキストで知るきっかけとなった山田方谷しかり、黒田清隆、伊東侑亨、等の人物像を知り、同じ日本人として尊敬と誇りを持ってました。これは、次代を担う子どもから老人まで、多くの人に知ってもらいたいことです。

日本のことを意識することなく行ってきた言動に、実は縄文時代から脈々と受け継がれてきたものであったことを、誇りをもって伝え、次の時代の融合に期待していきたいと思います。

30 大坪可奈

私は、これからの時代に子供たちにとってリベラルアーツが大切であると考えていました。それは、新しいものを生み出す力は、広いリベラルアーツが大切だと考えていたからです。

井上様から日本リベラルアーツのお話を聞いた時、すぐに参加させていただきたいと思いました。途中からではありましたが、とても興味深いお話ばかりでとても勉強になりました。

日本は長い歴史の中で人と人とのつながりや自然との共生。個と全体との調和を大切にしてきた国であることを改めて学ばせていただきました。今回の学びを通じて、幼児期から日本の心を育てるにはどのようなことを伝えたら良いのかを、再確認させていただきました。全体と調和し、人とのつながりを大切にすることが大切であり、平和な世界を築くと思います。

私は、子供たちに日本の心を伝え、未来のリーダーとして育てる責任があると思います。皆さんと力を合わせて、日本のことを伝えていきたいです。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

最後に、この素晴らしい機会を提供してくださった井上様、土居様、根本様へ、心からの感謝を伝えたいと思います。どうもありがとうございました。これからも、子供たちと共に、日本の心を大切に育てていきます。

《伴走者レポート》

オブザーバー（第二期卒業生） 富田直子

自啓共創塾の第二期卒業生として、まだ学び足りないと思っているときに、オブザーバーとしてのお声がけをいただきました。今回は、皆様の対話に耳を傾ける立場にありましたが、そのおかげで、すごいことに気が付いてしまいました。

様々な世代、様々なバックグラウンドを持つ皆様が対話する姿に、感動を覚えていたときのことで。ふと、「この対話の場には、塾生だけでなく、ここ日本に生きた何百年前、何千年前の大先輩たちもいるのではないか」と感じたのです。縄文時代に想いを馳せ、伝統文化を学び、古典の魅力を知り、近代化につとめた人たちの当時を想う…。一朝一夕でできたわけではない、日本のこころ。無数の人々の日常が、暮らしが、営みが、お天道様を見上げて「あー、ありがたい」と感謝した日々が、幾重にも重なりあって、私たちの細胞に刻まれていった。そう、自啓共創塾は、世代を超えた対話ができる場というだけではなく、時空も超えて過去の大先輩たちと日本のこころを語り合える場なのかもしれないと、第二期の塾生だったときには思い至らなかった気づきを、得ることができました。皆様と共に、先人たちの想いをもう一度追体験し、分かち合う場を持ったこと、そして新たな視点や視座、たくさんの刺激とインスピレーションをいただいたことに感謝します。

今、世界に足りない部分の多くが、日本のこころにはあると感じています。そのことを学び、感じ取った私たちが、日本人の奥ゆかしさをちょっとだけ超えて世界に発信していく、そんなときが来ているのではないか

と思います。これからも共に学び合い、共に日本のこころを発信する仲間として、一緒に活動していけたらと願っています。

オブザーバー（第二期卒塾生） 岩崎 隆

卒塾おめでとうございます。8カ月間の学びはいかがでしたか？

僕は皆様と同じ塾生として昨年学ばせていただき、塾での体験を活かし第3期の進行やオブザーバー役を何度か務めさせていただきました。ありがとうございます。

高校生、大学生から、社会人、海外在住者や、外国籍の人、そして私のような年齢の者までが、共に学び、相互に想いを述べ合い、互いに刺激を与えあえる場、自啓共創塾は皆さんにとっても、きっと素晴らしい体験道場だったのではないかと思います。

ノウハウやハウツーを一方向的に知識として受け入れるだけの研修、講演ではなく、一人の人間として、自身の生き方、考え方がどうあるべきか、そんな人間力の源泉を育む場であったのではないのでしょうか？！ 3年後、5年後、10年後、皆さんが各界、各層で活躍されている時、この自啓共創塾での気づきが活かされるのではないかと思います。

是非、友人知人にご推薦頂き、第4期と一緒に盛り上げていきましょう。

日本人として、「世界のための日本のこころ」この言葉は一生大切にしたいと思っています。

事務局 松本亮太

塾生の皆様、卒塾おめでとうございます。日本のこころを学ぶ自啓共創塾へは事務局の一員として参加させて頂きました。毎回塾生お一人お一人の言葉にハッとした気付きがあります。俳句では「自立」「他力」「合力」と言います。はじめは自分の力で俳句を詠み、鑑賞者からの指摘に気付き、最後は読み手と鑑賞者がひとつになって新しい世界を拓いていく。自啓共創塾で得た日本のこころへの気付きから、卒塾生の皆様が新しい世界を切り拓く原動力となれば事務局として嬉しく思います。

事務局 柏木満美

事務局としてご縁をいただいて丸3年、今期も主にメールのやり取りを中心に塾生の皆さまと関わられて頂きましてありがとうございました。

副教材を読み話題提供の先生のお話を拝聴していると「日本のこころ」らしいイメージがぼんやりと立ち現れてくるのですが、それを言葉で表そうとすると難しいものです。言葉では表しきれないものがあるから、言葉にしたとたん何か少し違う感じがしてしまうのです。でも感じている。この「感じ」こそが自分の中の「問い」で、この「感じ（問い）」を持ち続けることが大事なのだと丸3年経って思っています。ですので、塾生の皆さまにもこれからも大いに私達と関わっていただき、時に対話の機会を得て、互いに自身の問いを深め合っていけたらと思っています。これからもどうぞよろしくお願いたします。

塾頭 栗原康剛

「世のため人のため」という志と日本人が気にしがちな“世間”は同じものか否か「過度に競わず、ニッチを探し価値を創出するというのは日本らしい生き方では」「衆議を尽くすにはどうすればいいか」「二宮尊徳の本質は実践の人であること」「ほのめかし」とは、“相手に委ねる”こと」「生き様や人としての芯をつくる

リベラルアーツを学ぶ場がなくなっている」「人間力とは何かを探求しそれを磨く」「新しい AI の時代を受け入れ習合できないか」等々、第 3 期のグループ対話や五感塾を通じて印象に残っている視点や問題提起の一部です。皆さんもそれぞれの学びがあったかと思います。

以前ご紹介の通り、私は日本の未解決課題に道筋をつけようと **Japan Pride** イニシアチブという活動をしています。その中で、日本のこころを学ぶ当塾と、アリストテレスと孔子の対話から学ぶ東京逍遥塾（塾長：当塾アドバイザーの荒木先生）という 2 つの私塾をお手伝いしつつ、「リベラルアーツの社会実装」に取り組んでいます。例えば、技術革新と掛け合わせた「技術革新を次世代²共創に導く有志フォーラム（2023 年 2-3 月、「命の未来」をテーマに、リベラルアーツと宇宙研究・バイオ技術の識者、渋谷学園渋谷高校・東大の学生の参加を得て実施）」や「地域で学ぶリベラルアーツ塾」があります。

後者は「幸せの探究（利己～利他）」「幸せの実践」「信頼・人格の研鑽」を 3 要素とするリベラルアーツのルーツが存在する日本全国、各地域の先駆者から学び人生のパーパスを探索するコミュニティです。第一段として伊豆・伊東を舞台に来年度実施を計画し、現在プログラムづくりを行っています。冒頭に紹介した視点や問題提起はこれら 3 要素にも通じるものです。当塾と軌を一にし、謂わば地域展開の試みでもあります。是非、当塾とともに学んだ皆さんに何かしらご一緒頂けたらと思います。前者の有志フォーラムでも当塾関係者にご参加・ご協力頂きました。ご関心のある方がいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にお声がけください！（e-mail : ftakeo1971@nifty.com）

もちろん、これに係わらず当塾の運営や卒塾生ネットワークを含め色々な形でお付き合い頂ければ幸いです。今後とも宜しく願い申し上げます。

塾頭 根本英明

グループダイアログでは毎回、オブザーバーを務めさせていただき、その都度、皆さんのやり取りを伺いながら、「成程、こんな視点や考え方もあるのか！」と学ばせていただきました。

これまでの人生を振り返ってみると、自分にとって日本のこころに目覚めた原点は、小学生の頃、学級文庫にあった日本歴史物語を貪るように読んだことにあります。

民のかまど、雁の乱れ、青葉の笛、鉢の木、櫻井の訣別……等々。物語に登場した英雄、ドラマ、悲運のエピソードは、子供心をかき立て、ときに哀感を誘い、感動で胸が熱くなった思い出があります。小学生の娘にもその感動と面白さを味わって欲しいと、書店の児童書コーナーでかつて読んだものと同じような本を探したのですが、中々見つけることができませんでした。

いにしえの時代から連綿と伝えられてきた歴史物語は、日本人としてのアイデンティティを形成する土台でもあると思います。これを途絶えさせることなく、次世代を担う子供たちに語り伝えていくことを自らの使命の一つとしたいと考えます。

塾長 井上淳也

8 か月のあいだ皆さまとともに学ぶことができ嬉しく思います。

今あらためて歎異抄をじっくりと読んでいます。人間の業をすべて受け入れ善悪を超えた世界観を描いた親鸞は弟子をひとりも持ちませんでした。人が念仏を唱えるのは指導者がそうさせるのではないので、誰それを自分の弟子だというのはおかしいというのです。自啓共創塾においても、私も皆さんと一緒に学ぶ同朋です。

まだまだわからないこと知らないことだらけです。このご縁を大切に、これからも共に学び共に行動できればありがたいことです。

土居征夫

塾と言っても、誰かが一定の考えを教える場ではなく、主催者側も、塾生とフラットに同じ目線で学びあう場であるということに大事にしてきましたが、実際には私たちの方が、後に続く多世代で多様な社会に属する塾生の方々から多くの気づきや学びを得る機会であった気がします。そして、戦後に過去を失敗だけの時代と教えられ、祖先や先達の思考体験を殆ど知らないまま育った私たち後期高齢者も含め、同じ境遇だった後輩の各世代の方々も、何となく遺伝子？に残っている直感から、そのことに素早く気づき、学び直しが始まる速さに感激しています。これから、皆さま方と一緒に急速に同じような気づきが社会に広がっていく姿を求めていけば、一人一人がそれぞれに世界人類の未来への責任を感じる、主体性をもった個人と社会を取り戻していく時代が来るのは意外に早いのではないかと感じます。ありがとうございました。